

アジア圏 ラオス国

背景：

国際耕種のスタッフが、1998年から2000年にかけて実施されたメコン川沿岸貧困地域小規模農村環境改善計画調査に参画する機会を得た。本開発調査においては、農民支援体制の整備や参加型手法を使った開発計画の策定手法の検討を通して、現地の研修機関である Participatory Development Training Center (PADETC) のスタッフとの友好関係を育むことができた。PADETC は当初、持続的な農業による農村開発を目指していたが、近年では関係者の能力開発としての実践的な研修に力が注がれている。主な活動内容には、食糧生産、資源管理、収入向上、教材や研修手法の開発、持続的開発に関わる若い指導者の養成等が含まれる。今後、PADETC との交流を深めることによって協力関係を築き上げ、共同して現場レベルでの活動に参画して行きたいという構想を抱いてマスカット基金による活動を開始した。

活動：

2002年4月

今後の活動の方針と方向性を探るために、PADETC のスタッフや開発調査実施時のカウンターパート達との話し合いや現地調査を行った。現段階では、以下のような4つの選択肢を考えている。

- 開発調査で提案した内容の実施：前述の開発調査で既に選定した村において、行政による住民のための普及サービスを中心とした仕組み造りに貢献する。
- 中小企業育成事業：農家の収入向上を支援するために、特に過剰生産物や日持ちが悪い生産物を商品として加工販売するような仕組み造りに貢献する。
- 既存の有機農場に対する支援：今回訪問した有機農場では、有機栽培、染色、製茶、食品加工といった分野における技術的な支援を必要としている。こうした農場に対して技術支援を行うことは、地域におけるエコツーリズムの振興にも結びつき、間接的には環境教育的な波及効果も考えられる。
- 新規就農計画：現地に土地を購入して我々が考える有機農業を実践し、周辺農家を巻き込んでいく。



有機農場の桑畑



桑茶造り



有機農産物を使ったランチ